



一般社団法人
メディカルスタディ協会

◇ 中島 慶八郎氏の医療ブッタ切り 第 15 回 2025 年に向けて 薬剤師の役割 ◇

文／中島 慶八郎 氏

2025 年に向けて 薬剤師の役割

医学・薬学等の進歩と生活環境の変化によって、日本人の平均寿命は男性が 79 歳、女性が 86 歳、男女平均が 83 歳となり、男女の平均寿命でみると日本、サンマリノ、スイスの 3 カ国が 83 歳で 1 位（2013 年 WHO）となっている。とりわけ超高齢社会を迎えた日本においては、脳卒中の後遺症、人工透析、ペースメーカー、在宅酸素、自己インシュリン注射、緩和ケア等、疾病や加齢による身体機能・認知機能が低下している方々の生活サポートが喫緊の課題となっている。

そこで国は国民皆保険制度や介護保険制度などの維持を前提として、2024 年迄の 10 年間での大改革を始めた。その第一歩が、2014 年の診療報酬改正である。今迄は診療報酬でいわゆる誘導をしてきたが、これからは医療法などの法律を改正してゆくという。先ずは医療機関の機能分化と効率化であり、特に高度急性期病棟や地域包括ケア支援病棟の新設及び主治医機能を中心とした医療と福祉の連携及びチーム医療の促進である。

薬局は医療提供機関として、薬剤師は医療スタッフとして、チーム医療に参画することになる。これからの薬剤師は医療人として薬の知識を持つ専門家を基本としながら、OTC、サプリメントの活用、より良い看取りを含む在宅医療への関わり、地域における健康ステーションの役割等、更に多職種と協働（チーム医療）して前述の方々の生活支援（睡眠、栄養、運動、心の支援を含む）をすることが求められている。